

2014 年 2 月の関東甲信越の大雪災害 –災害の概要と防災科研の対応–

○上石 勲・中村一樹・安達 聖・山下克也・山口悟・本吉弘岐・佐藤篤司・石坂雅昭（防災科研・雪氷）
志村 徹・加藤秀紀（山梨県），渡邊清規（山梨県道路公社），長田亮治（甲府市），照井 智（富士吉田市）

1.はじめに

2014 年 2 月 14,15 日の関東甲信越地方を中心とした大雪によって死者 25 名，負傷者 1000 人以上，住家被害 500 棟以上（2 月 28 日消防庁調べ）の大きな被害が発生した。人的には特に山梨，群馬，長野，埼玉県の被害が大きい。山梨県甲府市ではこれまでの最高（49cm）の 2 倍以上の114cmの最大積雪深を記録した。山梨県塩川ダム管理事務所（北杜市）の積雪深計の記録では，時間積雪深差の最高が 18cm と記録されたように（図1），高強度降雪が継続した。また，山梨，長野，群馬，栃木，埼玉，神奈川，新潟南部，福島，宮城，東京都では山間部で多数の雪崩が発生したことも特徴で，南岸低気圧によって崩れやすい雪が広範囲に降ったことが推定されている。

2.雪害発生状況と対応

(1)大雪直後の状況

図 2 は通行止め路線（山梨県資料）を示したものであり，山梨県は 2 月 17 日までは近隣都県との交通が遮断され，ほぼ孤立状況となっていた。図 3 は 2 月 15 日の前橋市の状況で，道路は除雪されず，車も出せない状況だった。また，図 4 に示すように物流もかなり影響を受けていた。

(2)大雪災害危険性の周知

防災科研では，2 月 18 日に一部孤立解消した山梨県をはじめ，長野県，群馬県での大雪災害調査を開始した。山梨県内では，駐車場施設や農業用ハウスの倒壊，屋根雪崩落の危険個所が多く見られた（図 5, 6, 7）。防災科研ではまず，屋根からの落雪や全層雪崩の危険性について，地元報道機関と連携し，その周知を行った。図 7 に示すように山梨県内では 1 日中テロップとして流されていた。

(3)雪崩発生と対応

甲府市古関では 14 日 1 9 時に雪崩発生のため 4 台が埋雪し 4 名が要救助者となった事故から大災害が始まった（図 9）。この個所では後日，埋没車の捜索に協力した（図 10）。デブリの厚さは最高約 15m で，救助者からのヒヤリングによると「サー」という音とともに雪崩が複数回発生していたとのことである（図 11）。

防災科研では新潟県と連携し，山梨県や甲府市

職員と孤立集落への道路などを地上から点検し，雪崩危険個所については雪堤等の応急対策を行った。

3 月には全層雪崩や富士スバルラインでの雪崩など融雪期の被害も発生し（図 12），4 月以降も雪代などの恐れが残っており警戒が続いている。

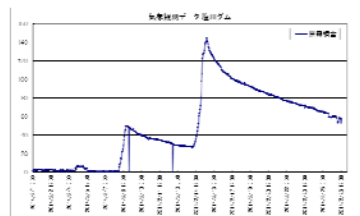


図 1 塩川ダム観測点雪深観測記録

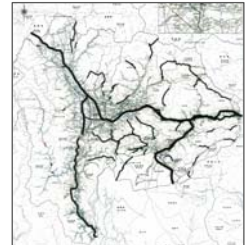


図 2 山梨県内の道路通行止め状況



図 3 前橋市（2/15 市民提供）



図 4 松本市コンビニ（2/16）



図 5 甲府市屋根雪崩落の危険性



図 6 甲府市駐車施設倒壊



図 7 山梨県農業用ハウス倒壊



図 8 大雪による危険性の周知（山梨県内の NHK 放送 2/20）



図 9 甲府市災害対策本部 図 10 埋没車の発見（甲府市古関 2/20）



図 11 雪崩デブリ 15m（甲府市古関 2/23）



図 12 富士スバルライン雪崩被害（3/19）